



発行所  
三池炭鉱労働組合  
大牟田市入船町1番地  
電話(53)3033-4  
編集兼人 田口芳博  
発行 半年間1,800円送料共  
振替口座番号  
労働金庫大牟田支店  
825-0000569

年末年始休日  
十二月二十九日(土) 特定休日  
十二月三十日(日) 普通休日  
十二月三十一日(月) 特殊休日  
一月一日(火) 特殊休日  
一月二日(水) 特殊休日  
一月三日(木) 特定休日

# 今後のたたかひの糧に

## 盛大に三池闘争30周年記念交流の集い

一九六〇年の「石炭つばし」政策による千二百人の首切りに反対し、弾圧と分裂攻撃の中で全国の労働者の支援をうけてたかひの集い、「総資本対総労働のたたかひ」といわれた「三池闘争」から三十年を迎えた十一月二十五日、六百人が参加して「交流の集い」を開きました。この集いには当時の指導者や労働団体、社会党・共産党、各民主団体の代表が招かれ、現役の組合員と主婦会員をはじめ退職者が参加、たたかひの歌と代表あいさつ、そして交流が三時間にわたって繰り広げられました。



三池闘争30周年記念交流の集い

会場となった大牟田ガーデンホールの前庭には、松島邦子さんの朗読で「三池闘争」の歴史を語り、会場からは、全国から馳せ参じた旧知、仲間、さらに組合歌「炭掘るの仲間との久し振りの対面」に、仲間の全員合唱。主催者を代表して中原組合長と藤田主婦会長が登壇、中原組合長は「三池闘争は、労働運動の歴史、青年行動隊員だった当時の経験、活動をバックに『やがて来る日』を交えて、活動家の排除と三池への集中攻撃、ホッパーでの攻防、久保さんの刺殺や安保闘争などを振り返りながら「国連平和協力法」案が出されるなど当時の情勢と似ている。この集いを今後の運動課題を遂行する糧に」とあいさつ。来賓あいさつに移り、まず藤原福夫炭労委員長は「基本的に情勢は変わっていないが攻撃の手法が変わり、労働運動も大きく変わった。三池がたたかひ続けた三十年

# 現有炭鉱の維持 存続をめざして 炭労臨時大会 中央行動・座り込み



炭鉱と産炭地域を守る第九次石炭政策を確立せよ！  
国民の貴重な資源・国内炭の放棄は許さない！  
国内炭産地を維持し、雇用を守れ！  
産炭地域を守れ！

ヤマとマチを守れ、との決意をかため、通産省前に座り込んだヤマの仲間たち

炭労百二十四回臨時大会が十二月三日東京で開かれ、第九次石炭政策確立をめざす今後のたたかひの方針を論議しました。冒頭あいさつに立った藤原委員長は「九次策をめぐる状況は総論から具体論の段階に入り、明年四月末に向けて命運をかけたたたかひになるが、ヤマとマチを守るために総論集を」と訴えました。焦点の第一号議案「第九次石炭政策の今後の取組」では、①資源の有効活用②安定供給③技術・技能の温存④産炭地域振興⑤雇用確保、などの位置付けを明確にして、石炭産業の維持・存続に必要な⑥需要の安定的確保の各種助成措置⑦適正炭価⑧労働条件確保

八次策前の水準に及ばず  
期末闘争、低額で妥結  
九次策が石炭審議で審議中という厳しい情勢の中で、八次策前の水準(四十四万五千円)への到達をめざし、五十五万円を要求したたたかひが、炭労の下期期末手当闘争は、十一月十七日の実行行使を背景にした十六日午後八時十五分妥結しました。前期妥結額に二万円上積みしてきたものの五年前の水準には至らず、各社間の格差(三井は最低)も解消できませんでした。中央での妥結をうけて二十三日、山元配分交渉の結果、生活給(一律給部分)の要求は通ら

## 荒尾市長選挙

### 梶島博明氏を推せん

荒尾市長選挙は、任期満了に伴い十二月十六日告示、同二十三日投票で実施されます。三池労組では、十二月二日の荒尾地評第三十七回定期大会で



の推せん決定、さらに推せん依頼をうけて十二月八日の第七回委員会推せんを決定しました。一九三二年生れ、五十九歳。五六年大牟田南高等学校定時制卒。三池労組中央委員などを経て七三年から八五年まで荒尾地評事務局局長、八五年荒尾市会議員に当選。現在荒尾市議会交通経済常任委員、日本社会党荒尾総支部書記長、現住所荒尾市下井手古庄原一〇九四一。

### 私の決意(要旨)

いよいよ選挙を守る、市民参加の清潔な市政づくり。①平和と民主主義を守り、中央集権の行革、消費税に反対し、市民のための健全な明るい財政確立。②子供に夢を、障害者・高齢者

## 石炭審議政策部会の動き

石炭審議政策部会、政策部会の第三回部会(十一月二十一日)では、通産省・資源エネルギー庁が項目別に各関係団体の主張を三論併記して「たたかひ」として提示しました。第一案は国内炭の生産量を将来ゼロにすべ

きという電力など需要業界の意見が中心。第二案は現状維持を主張する組合側の主張が中心。第三案は包括的なもので、今後の審議はこれを基調にして進め縮小を示唆する重要な内容です。

## 重大災害で保安団交

### 会社、一人作業やめるの回答

十一月二十九日午後八時二十分頃、三池炭四百二十メートル坑道上層西二十御東一御北口付近で、鉱車の脱線事故により仕組員の篠田隆義さん(四十四歳・大牟田市大字歴木五二四)が鉱車と支柱に頭部をはさまれ、脳挫傷で死亡する重大災害が発生しました。心から哀悼の意を表します。三池労組は災害に対する抗議と保安確立を求めて十二月一日

## 八次策前の水準に及ばず

### 期末闘争、低額で妥結

九次策が石炭審議で審議中という厳しい情勢の中で、八次策前の水準(四十四万五千円)への到達をめざし、五十五万円を要求したたたかひが、炭労の下期期末手当闘争は、十一月十七日の実行行使を背景にした十六日午後八時十五分妥結しました。前期妥結額に二万円上積みしてきたものの五年前の水準には至らず、各社間の格差(三井は最低)も解消できませんでした。中央での妥結をうけて二十三日、山元配分交渉の結果、生活給(一律給部分)の要求は通ら

本人給(一律)	二六、三七九円
家族給(一年)	四、五〇〇円
勤続給(一年)	二、五〇〇円
所得給	〇・〇七四九六
支給日は十二月七日。	
三池港務所の妥結額は前期比平均支給額六万七千五百円アップの五十七万五千五百円に妥結しました。	